

### 第26回種生物学シンポジウム

第26回種生物学シンポジウムは、2月3日（金）から5日（日）に大阪市立自然史博物館と関西在住の会員のお世話で神戸市の関西地区大学セミナーハウスで行われた。神戸震災の影響にもかかわらず110名の出席があり、熱心な討論が行われた。

また、総会に先立ち、編集委員会、幹事会、片岡賞選考委員会が開かれ、学会運営などについて検討され、その後の総会で幾つかの新しい決定があった。詳細は本ニュースに掲載されている。

プレシンポジウムでは「イネ科のバイオシステムティクスへの貢献」と題して故館岡亜緒先生の一連の研究が紹介された。

1日目には「分子系統学の現状と展望」、2日目には「種子散布の生態学」のシンポジウムが次の内容で行われた。

シンポジウム1：「分子系統学の現状と展望」

村上哲明（東大・理）：rbcL遺伝子の系統解析における有効性と問題点

中澤 幸（都立大・牧野標本館）：葉緑体遺伝子rbcLとmatKによるユキノシタ科ネコノメソウ属の解析

遠藤康弘（東大・資料館）：matK塩基配列による系統解析 バラ科サクラ亜科における解析例

小菅桂子（神戸大・理）：核遺伝子adhとgapによる系統解析の有効性

傳田哲郎（神戸大・理）：核遺伝子 adh

によるブラキコーム属（キク科）の系統解析

高畑尚之（遺伝研）：遺伝子の系図と種系統樹（霊長類を中心として）

小池文人（島根大・理）：系統樹に基づく形質進化の最尤推定

三中信宏（農環研）：分子データに基づく系統樹作成—形質進化最節約的推定

巖佐 庸（九大・理）：系統樹に基づく種分化率・種絶滅率の推定

シンポジウム2：「種子散布の生態学」

岡本素治（大阪市立自然史博）：果実の形態にみる種子散布

福井晶子（北大・低温研）：ヒヨドリによる種子散布—種子の散布と体内滞留時間

田中浩・中静透（森林総研・群落）：種子散布のFitnessをいかに評価するか

箕口秀夫（新潟県林試）：ドンダリの行方—ノネズミによる種子散布の特性

なお、シンポジウム1は種生物学研究19号に、シンポジウム2はPlant Species Biology Vol. 10にそれぞれ特集記事として収録される予定である。

### 第27回種生物学シンポジウム

第27回種生物学シンポジウムは96年4月11日から14日の間に京大会館（京都市）で国際シンポジウムとして行われます（詳細は8ページ）。

1995年2月4日 第26回種生物学シンポジウムの時に開催された

## 種生物学会総会についての報告

旧事務局 (1992 - 4年度)

1995年は種生物学会の役員交代の年にあたり、また財政的な問題が深刻になった年でもある。総会では、役員改選の報告と会費値上げ問題の検討・議論が中心になった。

### 報告・承認事項

#### 1) 改選された新体制

昨年11-12月に行われた、会長、副会長、幹事の選挙結果の報告が行われ、承認された。新体制(任期は3年間、1995.4-1998.3)は：

会長 小野幹雄 都立大(理学部)  
副会長 矢原徹一 (東大)→九大理学部  
会計 副島顕子 大阪府大総合科学部  
庶務 瀬戸口浩彰 都立大理学部  
幹事 北海道

菊沢喜八郎 (北海道林業試験場)  
(4月現在菊沢氏は京大生態学研究センターに転出されたので、次点の佐藤利幸北大低温研が繰り上げ当選になります)

#### 東北

平塚 明 東北大理学部  
西脇亜也 東北大農学部

#### 関東

鈴木和雄 都立大理学部  
原登志彦 (都立大理学部)→東大教養  
益山樹生 東京女子大現代文化学部

#### 中部

井上 健 信州大理学部  
綿野康行 金沢大理学部

#### 近畿

岡本素治 大阪市立自然史博  
湯本貴和 京大生態学研究センター  
加藤 真 京大総合人間学部

#### 中国四国

重信陽二 広島女学院大生活科学部  
国井秀伸 島根大汽水域研究センター  
九州沖縄  
川窪伸光 鹿大教育学部

#### PSB編集長

河野昭一 京大理学部

#### PSB編集員

巖佐 庸 九大理学部  
原登志彦 (都立大理学部)→東大教養  
森田竜義 新潟大教育学部  
森島啓子 国立遺伝研  
矢原徹一 (東大)→九大理学部  
渡辺邦秋 神戸大理学部

#### 種研編集長

山口裕文 大阪府大農学部

#### 種研編集員

岡田 博 阪大教養部  
角野康郎 神戸大理学部  
北元敏夫 (大阪市西淀川区)  
田村 実 大阪市大理学部  
西野貴子 大阪府大総合科学部  
藤井伸二 大阪市立自然史博

#### 2) 会員移動(1994年12月31日現在)

	現在 (昨年)	入会	退会
国内	一般会員		
	418名 (425)	7名	19名
	学生会員		
	37名 (39)	5名	2名
機関	5件 (4)		
購読	11件 (11)		
海外	一般会員		
	21名 (27)	0名	6名
	学生会員		
	3名 (1)	2名	0名
購読	35件 (29)	(6件)	3

### 3) 会誌・出版物発行状況

Plant Species Biology Vol.9 No.1, No.2

種生物学研究 第18号

News Letter No.11, No.12

#### 審議事項

##### 1) 財政：1994年会計決算報告

1994年度会計報告が以下(別表1)の決算書と会計監査委員報告に基づき承認された。

##### 2) 1995年予算案審議—1

1995年度予算案説明が提案されたが、この予算案は借入金百数十万円を予定したものであり、学会としては全く不健全な財政状態になることが明らかにされた。この危機的な財政問題をめぐって、幹事会から会費値上げが提案された。

##### 3) 会費値上げについて

財政状態については、会計監査委員からも、現状でいくつか改善すべき事項、例えば別刷り代金やカラー印刷代金の著

者負担が適正でない等の点が指摘されていたが、もしそれらを適正に処理をするとしても、ここ数年の財政状況についてのグラフを分析してみると、大幅な赤字は避けられない事態に至っていることが報告された。

この報告に基づき、幹事会からは学会会費を一般会員(現行6000円)を8000円、学生会員(現行4000円)を5000円に値上げする案が提案された。

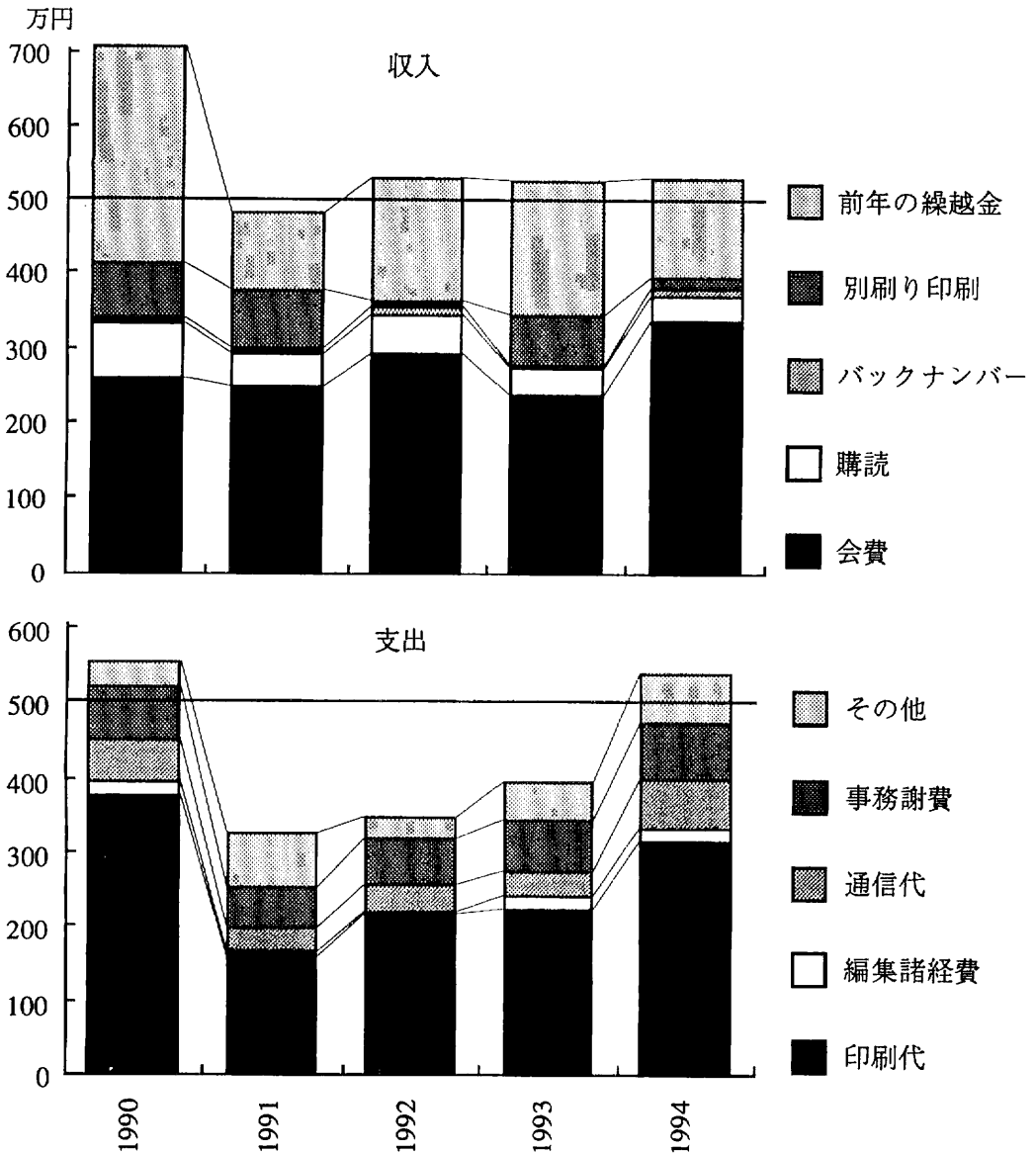
総会の議論では、「値上げ」に対しての原則的な反対はなく、会誌発行に関して財政状態を考えて、より節約し、正常な会の運営を図るべきだとの意見が出された。また、若手研究者の成長に配慮して、別刷り代金やカラー印刷費の負担が増加していた現状は、是正するべきだろうが、それだけでは、現在の財政問題は解決しないから、値上げはやむを得ないとの見解が述べられて、値上げ案は承認された。(一般新会費 8000円への値上げ

別表1. 1994年度 決算報告 (1994.1.1.~1994.12.31)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	3,342,962	印刷費	3,159,442
購読料	344,060	別刷代金	399,846
バックナンバー売上金	111,500	編集諸経費	187,738
別刷代金	135,996	通信費	636,910
預金利息	130,647	事務費	147,526
		事務補助謝金	752,000
		シンポジウム補助金	100,000
		雑費	3,793
小計	4,065,165	小計	5,387,255
前年度繰越金	1,356,784	次年度繰越金	34,694
合計	5,421,949	合計	5,421,949

上記の収支決算と内訳明細表・預金通帳・証票類を照合した結果、1994年度の会計報告(決算報告)を適正と認めます。

1995年1月9日 会計監査委員 加藤 真 岡崎 純子



**1990年から1994年までの5年間の種生物学会の収入と支出**

一見、黒字のように見えるのは、毎年PSBの印刷費支払いが会計年度を越しているため、その分が繰越金として次年度に加算されているためである。PSBで国際シンポなどの特集を出した年度(1990, 1994)は、大幅な赤字になっている。

に基づき、機関会費は8000円から10000万円になる。外国会員については現状で据え置く)

この会費値上げは、1995年度から実施されるので、すでに旧会費(6000円)で会

費を納入済みの会員には、値上げ分の差額の納入について新・旧会長名で依頼の手紙を出すことも了承された。

**4) 1995年度予算案審議—2**

会費値上げが決議されたので、それに

別表2 1995年度 種生物学会予算

(1995.1.1.~1995.12.31.)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費 (91~94年度未納分を含む)	4,016,000	印刷費	3,460,000
購読料	350,000	PSB 9 (3)	650,000
バックナンバー売上金	100,000	PSB 10 (1)	650,000
別刷代金	400,000	PSB 10 (2)	650,000
預金利子	30,000	PSB 10 (3)	650,000
借り入れ金	617,000	種生物研究18	300,000
		種生物研究19	400,000
		Newsletter12~14	60,000
		封筒印刷	100,000
		別刷代金	400,000
		編集諸経費	50,000
		通信費	500,000
		事務費	150,000
		事務補助謝金	750,000
		シンポジウム補助金	100,000
		雑費	100,000
小計	5,513,000	小計	5,510,000
前年度繰越金	34,694	次年度繰越金	37,694
合計	5,547,694	合計	5,547,694

(PSB 10 (3) の印刷費は、現在までの慣例では次年度に支払われることになるので借入金が必要でないであろう)

基づく新しい予算案(別表2)が提案され、承認された。

#### 5) 次期シンポジウムの形態と開催予定地について

本年は、種生物学会が設立されてから10年たった記念すべき年ですので、記念行事として、今回のシンポジウムを国際シンポジウムとして京都で開催することが決まった。時期は助成金の関係もあり、春以降になると考えられる。

-----  
神戸で開かれる予定で準備が進んでいたシンポジウムの開催については、淡路・神戸大地震の直後に、一時は中止も想定した。準備の中心の神戸大学は壊滅的な被害を受け、また、準備委員の中には住

居の被害に遭われた方もある。そのような中でシンポジウムが予定通り開催することが出来たのは、現地準備委員会の皆様方、セミナーハウスの皆様方の大変な努力のおかげである。セミナーハウスの皆様方も、大震災で予約の取り消しが相次ぎ、予定通り開催してほしいと希望された。そして、あの震災の直後にも関わらず、心のこもったおもてなしを受けることが出来た。

震災でお亡くなりになった5000名を越える多くの方々、また、避難所生活を余儀なくされている多くの被災者の方々に心からのお悔やみと、励ましを述べておきたいと思う。本当に有り難うございました。(H)

## 片岡賞の選考について

1994年度(第1回)の片岡賞の選考は、Plant Species Biology Vol. 9に掲載された論文の著者を対象として委員の推薦・投票によって行われました。著者が35歳未満であること、種生物学に貢献するオリジナリティーのある原著論文であることに加えて、種生物学会の会員である、年齢については40歳未満でも含める、共著論文の場合でも責任著者と認められれば良い、総説論文でも原著性の高いものは含める、などの点も考慮して、厳正に選考された結果、94年度は該当者無しとして贈呈を見送ることになりました。

1995年度はPlant Species Biology Vol. 10の掲載論文を対象として受賞者が選定されます。活発な投稿をお願いします(H. Y.)。

## お詫び

種生物学研究18号38ページ「種生物学研究」1号~17号の案内(総目次)の項で8号の目次より下記の論文が欠落していました。追加訂正下さい(H. Y.)。

小林繁男： 森林植物群落の多様性

中越信和： 冷温帯林植物の初期個体群動態

## 自然史学会連合

95年3月17日に幹事会が開かれ、連合の総会が6月3日に国立科学博物館分館研修棟で開かれることになりました。なお、シンポジウムは10月7日(土)ころ、科博本館でおこなわれる予定です。

## 学会事務局よりのお知らせ

### 会費変更と納入のお願い

種生物学会会費が変更されました。納入には種生物学研究に閉じ込みの振込用紙をお使い下さい。振込用紙の左上に印刷されている金額は改訂前の会費です。ご注意ください。会費は一般会員8000円、学生会員5000円となっています。

郵便振替口座01030-3-21704  
種生物学会 へてに納入して下さい。

なお、2年以上会費滞納の場合は自動的に退会扱いとし、会誌とニュースレターの発送を停止しています。会誌が届かなくなったなら、会費の払込状況を確認してください。

### 入退会変更届について

入退会、住所所属変更などは種生物学会京都事務局(郵便番号601-01 京都市左京区北白川追分町京都大学理学部植物学教室)へご連絡下さい。

### 種生物学研究への投稿のお願い

種生物学研究では総説、論文、書評などの原稿を歓迎致します。夏休み終わりころまでに原稿が届けば19号に掲載可能です。会員の積極的な投稿をお待ちしています。また、書評を充実するために、新たな編集体制を取っています。会員の方で書籍を出版された場合は、近く編集員もしくは委員長までお知らせください。

---

## 書 評

---

### 「花の性 その進化を探る」

矢原徹一著，東京大学出版会，1995年，  
3914円

著者についてはいまさら紹介するまでもないだろう。本書は著者の中学時代からの経験と研究成果を縦糸に，分類学から進化生態学までのさまざまな関連研究を横糸として，楽しいエピソードを交えながら語っている。その内容は，まず問題点を明確にしたのち，その解決を示し，さらに新たな問題点を提示するという，研究現場で実際に起こるプロセスをそのまま逐っていて，発見の喜びや新しい困難が読者にも実感できる構成になっている。

第1章と第2章ではヤブマオとヒヨドリバナを材料として無性生殖型植物の進化について行われた研究を紹介している。無性型のヤブマオになぜ変異が多いのか？という疑問からはじまった研究が，徐々にそれを解決する方法を得，さらにより研究しやすい材料に移って，植物の病気という新たな問題につながっていく過程が描かれている。惜しむらくは，原稿が1年以上前に書かれたためにヒヨドリバナとジェミニウィルスに関する最新の知見が紹介されていないことである。これについては，新たな著書の中で紹介していただけたらと思う。

第3章からは，自家受粉，閉鎖花，虫媒花における混雑性の進化といった問題について紹介される。とくに第5章は，モデルによって新たな見通しを得て研究を進めていく過程が描かれている。著者はモデルを現実に対する簡潔な説明として利用していて，理論的な厳密さを追求しているわけではない。このため，モデルや数式に対して難しいというイメージを持つ読者も，著者の順序立てた説明と四則演算（引き算の一種である微分を含む）だけで記述される数式を追っていけば，モデルは抵抗無く理解できるものと思う。

本書で紹介されている研究は，性の進化について植物を材料に行われた研究を広くカバーしており，この分野を概観したい方にはお勧めである。しかし，本書の構成はそういうreference的な目的で読むには不向きである。むしろ，ストーリーを追いつながりながら通読すべき本である。

本書を「教科書」として講義に使用できるのは著者本人しかいないだろう。だが，この本はこれから研究者になろうと志している学部学生や若い大学院生を対象として書かれた本である。この本は，モラトリアム人間といわれ，目的意識が希薄なまま研究者になろうとする若い学生（私も含めて）に，研究の進め方とその面白さを教えてくれるとともに，自分の研究の問題意識を改めて問いただす書物であり，研究者を志す若者には必読である。

（九大・理・生物 大井和之）

## 国際シンポジウム：植物集団の分化パターンと適応機構

### INTERNATIONAL SYMPOSIUM "Differentiation Patterns of Plant Populations and Adaptive Mechanisms"

国際シンポジウム「植物集団の分化パターンと適応機構」(International Symposium: Differentiation Patterns of Plant Populations and Adaptive Mechanisms)が、種生物学会10周年記念国際シンポジウムとして平成8年4月11日(木)～14日(日)まで京大会館で下記の通り開催されます。

今回の国際シンポジウムでは、植物の進化生物学の分野中、今日最も注目を引いている次の2つのトピックスを取り上げます。

1) 植物集団の分化パターン--最近の研究手法とその成果--

2) 表現型可塑性とその進化生態学的意義

世界でこの分野の研究で主導的な役割を果たしている第一線の研究者をオーガナイザーに迎え、最新の成果の発表、論議が展開されます。日本から、大勢の方の参加を期待いたします。

1. 開催期間 平成8年4月11日(木)～14日(日)

#### 2. 開催場所

京大会館(京都市左京区吉田河原町15-9)

Tel: 075-751-8311 Fax: 075-761-5403

#### 3. 登録費・参加申込

一般15,000円, 学生・院生10,000円。

参加およびポスター発表のお申し込みは、今秋に配布予定のセカンド・サーキュラーに同封の登録用紙をご利用下さい。海外向けのファースト・サーキュラーは現在印刷中です。ファースト・サーキュラーおよびセカンド・サーキュラーの必要な方は下記までご連絡下さい。

#### 4. 連絡先

〒606-01 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部植物学教室河野研究室内

種生物学会 国際シンポジウム事務局

Tel: 075-753-4131

Fax: 075-753-4122

#### 5. 組織委員会

小野幹雄(種生物学会・会長)

巖佐庸(九大・理)

伊藤一幸(東北農業試験場)

伊藤元巳(千葉大・理)

河野昭一(京大・理)



原登志彦 (東大・教養)  
矢原徹一 (九大・理)  
渡辺邦秋 (神戸大・理)  
Michael T. Clegg (Univ. of California, Riverside, U.S.A.)  
Barbara Schaal (Washington Univ., U.S.A.)  
Stephen C. Stearns (Univ. of Basel, Switzerland)

## 6. プログラム

### April 11 (Thursday), 1996

Tour (Kyoto City), Registration, and Mixing

### April 12 (Friday), 1996

#### Session 1:

#### ***Differentiation Patterns of Plant Populations-Modern Approaches and Recent Progress***

**Organizers:** Barbara Schaal, Michael Clegg, and Tetsukazu Yahara

**Invited Speakers (tentative):**

Brandon Gaut (Center for Theoretical & Applied Genetics, Rutgers Univ., U. S. A.)

Andy Clark (Dept. of Biology, Pennsylvania State Univ., U. S. A.)

Kermit Ritland (Dept. of Botany, Univ. of Toronto, Canada)

Barbara Schaal (Dept. of Biology, Washington Univ., U. S. A.)

Michael T. Clegg (College of Natural & Agricultural Sciences, Univ. of California, Riverside, U. S. A.)

Fumio Tajima (Dept. of Biology, Univ. of Tokyo, Japan)

### April 13 (Saturday), 1996

Poster Session

### April 14 (Sunday), 1996

#### Session 2:

#### ***Phenotypic Plasticity and Its Evolutionary -Ecological Implications***

**Organizers:** Stephen C. Stearns, Yoh Iwasa and Shoichi Kawano

**Invited Speakers (tentative):**

Johanna Schmitt (Dept. of Ecology & Evolutionary Biology, Brown Univ., U. S. A.)

Carl D. Schlichting (Dept. of Ecology & Evolutionary Biology, Univ. of Connecticut, U. S. A.)

Peter van Tienderen (Centre for Terrestrial Ecology, Netherlands Inst. of Ecology, The Netherlands)

Stephen C. Stearns (Zoology Inst., Univ. of Basel, Switzerland)

Ian Thomas Baldwin (Dept. of Biology, State Univ. of New York, Buffalo, U. S. A.)

## 第 17 回 個 体 群 シ ン ポ ジ ウ ム

個体群シンポジウムが下記の内容で行われます。なお、シンポジウムの定員は150名が予定されています。早めに申し込み下さい。

期間：1995年9月30日～10月2日

会場：三重県菰野町湯の山温泉希望荘  
（近鉄「湯の山温泉」から送迎バス  
またはタクシー10分）

日程：

9月30日（土）ポスターセッション

10月1日（日）シンポジウム1

「個体群変動」

Peter Turchin（コネチカット大）：個体群変動の時系列解析

原登志彦（東大教養）：植物個体群における個体差と成長変動

中岡雅彦（東大海洋研）：変動環境における野外個体群の動態

津田みどり（東大教養）：個体群の時間的・空間的構造と動的特性

原田祐子（九州大理）：格子モデル個体群における密度とこみあい度の動態

吉村 仁（インペリアルカレッジ）：確率的変動環境における個体群動態

10月2日（月）シンポジウム2

「微生物と動植物の相互作用系」

加藤憲二（信州大医短）：水界生態系におけるバクテリアを中心とした相互作用系

Keith Clay（インディアナ大）：内生菌はイネ科寄主植物の個体群動態と被食者との相互作用にどのような影響を及ぼすか

矢原徹一（九州大理）・舟山幸子（筑波大生物学系）：ウイルス感染がヒヨドリバナ無性型の適応度に及ぼす影響

梯 正之（広島大医）：個体群と伝染病：その動態と進化

山村則男（佐賀医大）：共生微生物の進化生態学

参加費（食事宿泊込み）

一般：2万8千円

（8月11日以降は3万円）

学生：2万円

（8月11日以降は2万2千円）

参加費などのご送金は郵便振替で下記口座をお願いします。

口座番号00850-7-67269

口座名 個体群シンポ事務局

参加申し込み・問い合わせ：

〒514 津市上浜町1515

三重大学生物資源学部昆虫学研究室

山田佳廣（個体群シンポ）

Tel 0592-31-9498

Fax 0952-31-9634